

吉谷おじさん



じょ えんばい
徐 艶梅

出身 中国
職業等 技能実習生
在日期間 11 ヶ月

皆様、こんにちは。

私は研修生として日本に来てもう 11 カ月になりました。幾つもの感動したことを胸にしまいました。

その中で、吉谷おじさんは私にとってとっても感動的な仕事仲間でした。

9月のある日、おじさんに仕事を手伝ってもらいました。私はおじさんに、「日本では、私の父と同じぐらいの年齢の人をおじさんと呼ぶのは失礼なことでしょうか」と聞きました。おじさんはいろいろな会話や常識を説明してくれました。でも、私はほとんどわかりませんでした。おじさんもほかに説明する方法がなかったのので、私たちはその後、話しませんでした。

5日後、おじさんは私に話しかけました。仕事が忙しく、機械の音も大きいので私は全然聞こえません。だから、ずっと、「すみません、わかりません」と言っていました。おじさんは話をやめてしまいました。私はすっかり気がめいってしまいました。

午前中の休憩のとき、もう一度、詳しく言ってくれました。長靴入れの棚に日本語の本が置いてあります。確かにこう聞こえました。でもはっきりわかりませんでした。

昼休み、長靴入れの棚に黒い袋を見つけました。更衣室へ行って袋を開けて本当に驚きました。えー、新しい日本語の本、2冊も。敬語に関する本だ。私は先日のことを思い出しました。おじさんは私にわざわざ本を買ってきてくれました。そう思うと涙がいっぱいこぼれました。私の心はとっても温かくなりました。

更衣室で感謝の言葉をたくさん考えました。でも、午後、おじさんに会ったとき、「ありがとうございます」しか言えませんでした。おじさんはただ笑顔でうなずきました。私はまた涙でいっぱいになりました。あのときの気分はとっても言葉では言い表せないほどでした。

また、ある日、おじさんは私に、「今、紅葉の季節になりました。景色が美しいですよ」と言いました。私は、「大好きですけど、もうそろそろ日本語能力試験だから、休日も一生懸命日本語を勉強していますので見るできません。残念です」と言いました。

それから数日後、長靴入れの棚に紅葉の写真を見つけました。おじさんは私にわざわざ写真を撮ってこっそりそこに置いていました。

時々、私に、「今の生活は苦しいですが、将来の暮らしはもっとよくなりますよ。頑張ってください」と励ましの言葉をかけてくれます。

私の寝室にはおじさんにもらった写真が貼ってあります。疲れたとき、故郷へ帰りたとき、切ないとき、写真を見ると元気が出ます。私は頑張らないといけないと自分に言い聞かせます。

今、私は、おじさんに、「いつも私を支えてくださって本当にありがとうございます」と言いたいです。こんな優しいおじさんに会ったのは初めてです。私は大きな感動と勇気を与えてもらいました。

今、苦しいときもありますが、私は一生懸命いろいろなことを勉強し続けます。私をかわいがってくれた

人の期待に背けません。必ず夢を叶えるために私は歩みつづけます。

ご清聴ありがとうございました。